

阪神・淡路大震災から10年……

新潟中越地震

ボランティアに参加して

もしも美浜区に避難所が必要となったら!



昨年、新潟県長岡市にある県立明德高校で山古志村の避難所の方々のお世話をさせて頂きました。避難所生活を被災者の方々と一緒になって過ごすことにより、避難所の仕組みや救援物資の保存、配給方法、食事、洗濯、入浴、出入りの名簿管理、防犯、娯楽等の運営を頭に刻み込んで来ました。

しかし、避難所には、目には見えませんが、皆さんの不安、無念、虚脱感、しっかりせねばという気持ち、いろいろな想いが溢れていて、そのことの方が実体として迫ってきました。そのような中でも、何とか立ち直り、故郷の村に皆で帰ろうと助け合っておられました。豪雪地帯を生きる人々の忍耐と根性と礼儀正しさを垣間見たように思いました。最後は、家族との連帯、地域との培った連帯、その人の人格が災害後の人生を切り開いて行くように思えました。もし千葉市美浜区でこのような避難所を作らねばならない時は、どんな段取りで、地域と行政がどのように連携し緊急に行なうのか、県や市と一つ一つを具体的に詰め、地域の皆様に分かりやすく伝えるべく取り組んで参ります。



山古志村の長島村長と河野としのり県議(長岡市臨時村役場に) 役場の人に「何が一番辛いですか」と尋ねますと、「未来が見えないこと」と一言答えて遠くを見られました。家も傾き、大地は地震前と全く変化し、ひび割れのある軟弱な地盤となり果て、地下水も変化したため養殖の鯉も育つか分らないそうです。

千葉県議会議員 河野俊紀



避難所の体育館の壁にあった張り紙。皆さんの想いが強く感じられました。

避難所の様子

やはり、健康管理、急病人の対応、心のケア、感染症対策、それに伴う衛生管理が十分に考えられていました。

山古志村の方々は礼儀正しかったです。夜中に門番をする私に、いつもご苦労さん、ありがとうございますと頭を下げてトイレに出て行かれました。自衛隊の作ったお風呂の中でも見つけてはお疲れさんと言ってくださいました。私は無言のお教えを戴いたように思えました。明け方になると、まだ暗い中で、寝付かれず、ストーブを前にして座り込む方々が何人もおられました。人々の無念な気持ちが伝わって参りました。



体育館(避難所)での生活風景



食事の配給風景



校庭は自衛隊の災害派遣部隊が炊事の炊き出し、お風呂を提供。

避難所の設備



洗濯機と乾燥機には番号が打たれ、使い終わると直ぐに「何番終了です」と放送します。



やはり避難生活する方々の健康管理が一番。健康相談所



皆さんが自由に使えるように体重計や血圧測定器を設置。



ガムテープ、軍手、文房具等生活必需品の一括管理



通信手段の一番は携帯電話。全てに対応する充電器。

ボランティア活動の様子



訪問者また避難者の外出を管理する河野としのり県議

食事運び、ストーブの灯油・ボットのお湯の補充、全国から届いた品物の補充、受付、防犯などを行ない、寝るのは体育館の一段上がった舞台のような所で、支援物資をかき分けてスペースを作り、持参した寝袋で寝ました。午後十時から午前二時まで眠り、そのあとは防犯をかねて体育館のドアのところで寝ずの番でした。夜中、お年寄りの方々がトイレに行き来致します。体の不自由な方々は行って支えてあげながらドアまで行きます。ドアから寝床までいく途中で、床で滑って大きな音を立てて転ばれる時があります。そうしたときは、まっしぐらに走って駆けつけ、抱き上げ薄い布団と毛布の寝床に運んでいきます。そんな日々の繰り返しでした。

ボランティアの生活

	体育館の入り口で防犯のため門番
6:00	自衛隊の炊き出しの体育館への運び
8:00	朝食後給付、受付、食料補給、支援物資の整理
11:00	昼食準備、受付、娯楽の手伝い、生活必需品整理
16:00	入浴の誘導、行事予定作り
18:00	夕食の配膳
22:00	就寝 仮眠程度
2:00	起床 体育館の入り口で防犯のため門番

避難所の立ち上げ運営について県の支援の充実を定例県議会で訴える。